



名古屋NGOセンター ● 会報
NGO=Non Governmental Organization

vol.118

2018.5 (年3回発行)

さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。
これを世界にたとえ、さまざまな果実(人々)の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



フィリピンで活動するイカオ・アコは、(株)ニチバンと連携してマングローブの植樹やメンテナンスを進めています。

特集

企業との連携に踏み出そう！

企業との連携には興味があるんだけど…という団体の方必見！
実は、最近企業サイドが変わりつつあるのです。

NGOトーク

ニカラグアの明日を担う人たちのために

ニカラグアの会 事務局長 伊藤 幸慶さん、ボランティアスタッフ 西口 のぞみさん &
認定特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター 理事 八木 巖

企業との連携に踏み出そう!

企業との連携を考えたことはありますか? 「豊富な資金は魅力だけど…」 「とても難しそう」 「ウチは小さなNGOだから…」 「企業の宣伝に使われるのはちょっと…」 と思っていませんか?

実は最近企業サイドがCSRに注目しているのです! そのCSRを達成する一つ的手段としてNGOと連携するケースも事例は増えつつあります。企業サイドの考え方の変化をつかみ、活動の幅を広げてみましょう。

名古屋NGOセンターでは、2017年度にインターネット上に「NGOと企業の連携プラットフォーム」ページ (<http://nangoc.org/plt>) を立ち上げ、勉強会やシンポジウムの記録や連携事例をまとめました。2018年度は、東海地域の連携意欲の強いNGOを紹介する企業向けの小冊子を作成して、連携を支援する予定です。

変わりつつあるCSR

■CSRとは?

「企業の社会的責任(Cooperate Social Responsibility: CSR)」という言葉が定着して久しいが、その定義は必ずしも定まっていない。たとえばアメリカのCSR推進団体Business for Social Responsibilityの定義は「社会が企業に対して抱く法的、倫理的、商業的もしくはその他の期待に対して照準を合わせ、すべての鍵となるステークホルダーの要求に対してバランス良く意思決定すること」というものだ。ステークホルダーとは、その企業の活動によって影響を受ける人や、与える人のことである。真っ先に思い当たるのが顧客や従業員、取引先であるが、企業を監視したり、事業提携を行うNGO/NPOもこの中に含まれる。

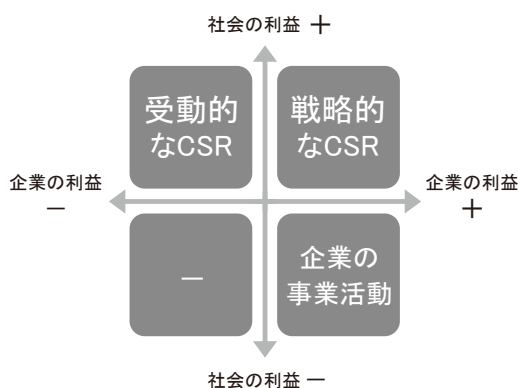
CSRという言葉からは地域のごみ拾いや森林保護活動など、社員によるボランティアベースの社会貢献活動が思い起こされるかもしれない。このようなCSR事業は、企業が自社のPRのため、あるいは環境汚染や児童労働など、企業活動が社会に与えている悪影響への免罪符として行っているイメージもあるかもしれない。その裏側には、企業は己の利益のみを追求し、社会の利益を考慮しないものだという想定がある。



■戦略的なCSR

しかし近年、このようなCSR像に変化がみられる。ハーバード大学のポーター教授は、CSRには「受動的なCSR」と「戦略的なCSR」があると説明する。受動的なCSRとは、本業と関わりのない分野での社会貢献活動や、自社の事業によって生じる悪影響を緩和する活動が含まれる。たとえば、工場から出るばい煙を少なくするために煙突にフィルターを設置する、といった活動が想定できる。しかしポーター教授は、これらの活動は必要ではあるものの、社会に大きなインパクトを与えることができず、その企業を成長させることもできないと言う。

一方で「戦略的なCSR」は、企業と社会の「共通価値(Shared Value: SV)」を探ることから始める。この考えは、企業の利害と社会の利害は別であるという前提を取り払い、両者がwin-winとなるような活動を見出そうとする。その活動の中にこそ、企業が長期的に成長することができるイノベーションの機会があり、それを通じて企業の利益追求だけでなく社会問題を解決することができるということである。たとえば自動車を作る会社がCO2削減に資するエコカーを開発することや、コンピューターを作る会社がIT労働者不足を解消するためにIT教育を支援するといったケースが考えられる。



■CSRに関する国際規格

このように一言にCSRといっても、想定される事業範囲には大きな差があるが、国際的な大企業を中心に「戦略的なCSR」が広がっている。そんな中、国際標準化機構ISOは、2010年に組織の社会的責任に関する国際規格ISO26000を発行した。この規格は、持続可能な発展を実現するため、企業を含むあらゆる組織に、社会的責任を考慮した行動を促すためのガイダンス文書である。この規格は品質マネジメント規格ISO9001などとは異なり、認証規格ではなく、あくまで推奨事項を記述した「手引書」という立場をとる。また、その作成には多様なステークホルダーによる作業部会が関わった。その中には政府や産業界のほかにもNGOも含まれていた。

持続可能な発展への圧力が企業にもかかる中、国内外や規模の大小を問わず、CSRを意識しない企業は存続が難しくなるだろ



う。企業の事業活動は社会に大きな影響を与え、逆に社会は企業の事業活動に影響を与える。その中で企業のCSR、あるいは事業活動の重要なステークホルダーとして、NGOの役割は大きくなりつつある。

SDGsと企業

持続可能な発展のための開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)は2015年に国連で採択された。2030年までに持続可能な開発を実現するための17の目標と169のターゲットを擁する。貧困や飢餓の撲滅といった従来の開発目標に加え、持続可能な生産・消費システムの確立や科学技術の適正な利用なども射程に含まれる点に特徴がある。

国連シンクタンクのSDSNらが2017年に発表したレポート「SDG Index and Dashboard Report 2017」では、様々な指標を用いて各国のSDGsに関する取り組みを評価している。日本のSDGsの目標達成状況は157か国中11位であった。すでに目標を達成しているのは教育、経済成長と雇用、インフラ・産業化・イノベーションであり、逆に目標達成から程遠いのはジェンダー平等、持続可能な生産と消費、気候変動、陸上資源、実施手段に関する分野であった。

このようにSDGsに関する状況を数値化することができるため、各主体は進捗状況を管理することができる。日本で遅れていると評価された分野は企業活動にも大きく関わる分野であることから、SDGsの実現のため企業の果たすべき役割と責任は大きい。



(担当:加藤)

連携成功事例一覧

加盟団体の中にも、企業との連携に取り組んでいる団体があります。

ここではセンター主催のシンポジウム・勉強会でとりあげた連携の成功事例を紹介します。

団体名	(特活)イカオ・アコ
連携先企業名	ニチバン(株)
連携内容	「ニチバン巻心エコプロジェクト」と称し、粘着テープ巻心の回収を行い、古紙回収業者から利益をイカオ・アコのマングローブ再生事業に寄付する。

団体名	(特活)まちづくりスポット
連携先企業名	大和リース(株)
連携内容	地域の問題を解決する活動を活性化していくことを目的に交流スペース「まちづくりスポット」を開設し、新たな地域活動を生み出すマッチング等を行う。

団体名	(公財)アジア保健研修所
連携先企業名	(株)東海理化
連携内容	社員食堂のチャリティー・ヘルシーメニューの代金のうち10円が、AHIの行っているフィリピンでの保健事業へ寄付される。

団体名	(認定NPO)テラ・ルネッサンス
連携先企業名	(株)クリスタル
連携内容	(株)クリスタルが販売する寄付付きウガンダコーヒーを購入することで、ウガンダの「元こども兵の社会復帰プロジェクト」の支援に充てられる。

NGOと企業の連携事例 ①

ホープ・インターナショナル開発機構とシューターズ

2018年2月13日(火)夜、名古屋伏見のシューターズというカフェの奥の一室で特定非営利活動法人ホープ・インターナショナル開発機構(以下ホープと表記)のレクチャーが行われた。会費は1000円で食事とフリードリンク付きであった。シューターズの経営者はホープの設立にかかわっているカナダ人で、毎月1回のホープ・ナイトの催しのために場所と飲食物を提供してくれているとのことだ。当日は取材者3人を含めて十数人の参加者があった。

まず、第一部としてホープの活動紹介が行われた。続いて第二部として開発オフィサーの松浦史典氏の講演「国際協力・メタファシリテーション」の講演会が行われた。ホープは国際的な貧困撲滅のためのNGOで、水問題などに取り組んでいる。

このような企画が毎月シューターズの店内で行われることで、シューターズの側には名古屋での知名度を上げ、リピーター客を期待できるというメリットがある。さらに国際貢献や社会問題に関心を持っているというアピールもできて、店のイメージアップにつながることも期待される。ホープ・ナイトが開催されるのは、客が比較的少ないウィークデイで大きなスポーツ・イベントがない日に限定されているが、NGO側から見ても、このような無償提供



シューターズの店内で講演する松浦さん

を得られることは大きなメリットといえよう。

今回のテーマである企業とNGOの連携、企業のCSR活動という点では、ホープの取り組みは小規模ではあるが、継続性もあり参加しやすい点でも評価できると考える。今回の講師の松浦さんの話では、欧米では寄付行為が一般的なので、欧米人が相手の場合には連携が行いやすいという。日本社会では、まだまだ先駆的な例とも言えるので、今後いかに企業側の意識を変革していけるかが鍵であると感じた。

(担当:内藤)

NGOと企業の連携事例 ②

認定NPO法人レスキューストックヤードとユニー(株)

2017年1月20日に行われた「企業とNGOの連携促進シンポジウムin名古屋」第1回を参考に紹介する。

連携までの流れ

認定NPO法人レスキューストックヤード(以下、RSY)では、震災直後から宮城県七ヶ浜町にスタッフを常駐させ、世間では震災支援が風化していく中で東日本大震災支援を継続している。

一方でユニー株式会社(以下、ユニー)は、企業として大切にしている「子どもたちに笑顔届けよう」という大きなキャッチフレーズをもとに、ESDをテーマにしたシンポジウムにて出会ったRSYと連携することを決めた。

具体例

ユニーが実施する東日本大震災へのドネーション企画とコラボして、これまで小学校への楽器や幼稚園・保育園への絵本の寄贈をしてきた。

また、子どもたちやお母さんたちの生の声を聞いて、手狭な仮設住宅ではできない落ち着いて勉強できるスペースや子どもが安心して過ごせる空間が必要だと認識していた。そこで、ユニー系列のコンビニの店頭募金により「きずな号(移動学習室)」「きずなハウス(地域の集いの場)」を設立した。現在は仮設住宅も無くなったが、駄菓子の販売や遊具の貸し出しなどを通じての憩いの場として、また七ヶ浜町の歴史や文化を子どもたちへ伝えるなどの学校

の勉強に留まらない学びの拠点として活用されている。

さらなる応用

RSYは災害救援というものを防災・減災と隣り合わせのものと考えている。そこで、ショッピングセンターには特に企画の対象としたい親子連れが多いため、防災・減災の場でもユニーと連携し、子どもたちが遊びながら学べる防災企画を実施している。企業連携のメリットを活かした取り組みだといえる。

企業とNGOのマッチング

民間企業だけでなく行政と協働する際も言えることだが、目的や理念が理解されないとお互いのためになる活動はできない。また、連携している以上最大限の効果を発揮したい。



(担当:高橋)

住友理工株式会社 CSR部長 戸成司朗さん インタビュー

住友理工株式会社は、SDGsを企業経営のバックボーンとして捉えて、東海地方でも特にCSRを積極的に推進している企業です。これまでいくつものNGO/NPOと連携してCSR事業を行ってきた戸成さんに、企業が連携するためにNGO/NPOはどのような役割を担うべきか、必要なことは何か、どのような課題があるのかについてお話を伺いました。



企業がCSR活動をNGO/NPO(以下NGO)と連携して行う際、NGOにはどのような役割を期待しますか？

NGOと連携するのは人件費削減という面もありますが、企業にはないノウハウやスキル、ネットワークを与えてくれることを期待しています。逆に言えば、これらがなければNGOと連携する意味はありません。

連携するNGOに対してどのようなことを望みますか？

受託した業務の品質に責任をもってほしいということです。NGOだから、社会にとっていいことをしているから、という甘えがあってはダメです。また企業から見ると、多くのNGOではあらゆるノウハウが一部のみに集中し、「暗黙知」となっています。それを「見える化」して「形式知」にしてほしいと思います。そうすることによって、ノウハウやスキルが継承され、スタッフが育っていくのではないのでしょうか。

連携するNGOを選定するうえで重視している点は何ですか？

担当者の熱意は重要ですが、熱意だけあってもアウトカム

(outcome)がなければ組むことができません。アウトカムとは、その事業を行うことによって何がどう変化したのか、定量的に評価したものです。また情報発信・収集能力は、事業の成功を左右するので、非常に重視します。

NGOと連携する際の課題は何でしょうか？

企業にはNGOに関する知識がないので、連携する団体を探すのに苦労します。データバンクやマッチングイベントがあれば良いのにと常々思っています。逆にNGO側が企業連携をしたいと思っているなら、創立〇周年といった周年事業で社会貢献をしたいという企業があると思うので、声をかけてみるといいかもしれません。

(担当:加藤)

この2つのPDFは、企業との連携のポイントなどがまとまっていて必見です！

「NGOと企業との連携推進ハンドブック 新しいパートナーシップによる対話と協働に向けて」

60ページPDF 外務省 2009年

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shimin/oda_ngo/shien/pdfs/kr_handbook.pdf

企業ができるきっかけづくり⇄NGOができるきっかけづくり、企業が連携したいNGOの条件⇄NGOが連携したい企業の条件、のように、シチュエーションごとの企業とNGOの考え方の違いがわかるようになっています。

地球規模の課題解決に向けた企業とNGOとの連携ガイドラインver5

28ページPDF 国際協力NGOセンター(JANIC)2017年

http://www.janic.org/ngo_network/PartnershipGuideline.ver5.pdf

「企業とNGOの覚書サンプル」「質の高い連携チェックリスト」などすぐ使える様式もあり便利です。

NGOトーク
理事が聞く

第53回

ニカラグアの明日を担う 人たちのために

ニカラグアの会 事務局長 伊藤 幸慶さん、ボランティアスタッフ 西口 のぞみさん &
認定特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター 理事 八木 巖

ニカラグアについて

八木 ニカラグアについて知らない方が多いと思うので教えてください。

伊藤 ニカラグアは7か国で構成される中米のほぼ中央に位置しています。日本の3分の1の面積なのですが人口は600万人しかなく、牧草地が多い地形です。同じ中米でもかなり経済状況に差があり、1人当たりのGDPがパナマ14,000ドル、コスタリカ12,000ドルに対して、ニカラグアは最も少ない2,100ドルしかありません(日本は4万ドル)

八木 私の世代はサンディニスタ革命を思い浮かべますね(笑)(注:親米独裁体制のソモサ政権を1979年に倒した革命。その後革命の中米諸国へ波及を恐れたアメリカのレーガン大統領が介入して1988年まで内戦が続いた。)

伊藤 今は選挙が行われ政治的には比較的落ち着いています。現在の大統領

領はサンディニスタ革命を主導したオルテガ大統領です。

八木 NGOは政治的には中立にすべきなのですが、カウンターパートや支援者の思いもあり難しところですね。急に政府から表彰状をもらったりして、こりゃなんかあるなとか(笑)。

伊藤 革命はプランテーション、モノカルチャーなどの大地主から一旦は農地を解放したのですが、内戦後大地主が一部戻ったため、中途半端に終わってしまいました。ただ識字教育は上がったので教育面の効果はあったと思います。しかし地域で最貧国なので、アメリカやコスタリカに出稼ぎに行く人も多いです。

ソーラーパネルで 太陽光発電

八木 ニカラグアの会はどのような経緯で設立したのですか。

伊藤 1985年に「名古屋ニカラグアに

医療品を送る会」が立ち上げたので今年で33年目です。当時は内戦状態だったので特に子ども向けの医療品が不足しており、大学生有志が立ち上げて医薬品を送りました。その後内戦終結とともに教育支援に活動を移しました。職業訓練の支援の他、今は行っていませんが奨学金も行っていました。

八木 奨学金は難しいですね。村で一番優秀な子に奨学金を支援してもその子は首都の大学に行ってしまう、村に戻ってこなかったということも聞きます。

伊藤 ニカラグアには様々な事情により教育を受けられなかった女性や、シングルマザーの女性がいます。男性が出稼ぎに行きシングルマザーになって戻ってしまう人も多いです。彼女たちの自立のために職業訓練を支援しています。中南米はマチズモ(注:男性優位主義)のために女性の地位が低く、DVの問題も多いのです。

その後、ソーラーパネルプロジェクト



現地カウンターパートの方々に小型ソーラー発電キットをプレゼント!
(シーテックさんからいただいた物)。

ニカラグアの会の伊藤さんは、名古屋NGOセンターの理事としても活躍しています。もう一人の西口さんは以前名古屋NGOセンターでインターンをしていました。ルスリールジャパンさん、イカオ・アコさんともシェアしている嶋田ビルの事務室でアットホームな雰囲気でお話をうかがいました。

名古屋NGOセンター八木理事

伊藤さん(左)と西口さん(右)

も始めています。ニカラグアでは電気事情が悪く学校でも停電が頻繁に起こります。ソーラーパネルを手作りして使います。2011年から数度の技術講習会を経て製作や運用を現地の人々の手に委ねるようになりました。学校などの教育施設を中心に、数か所でパネルが活躍しています。

八木 ユニークな試みなのでぜひ他の団体さんにも検討してほしいと、以前のさんぐりあ(115号 2017年5月号)でも取り上げさせていただきました。天候や電力事情など条件があれば他の国でも使えると思います。

伊藤 最近、日本の家庭でも太陽光発電が普及し始めていますが、商用電力網(交流100V)とつながっているので曇っていたら商用電力から使えますし、余っていたら売電もできます。しかしこの方法は設備も高価で技術的にも難しいので、ニカラグアでは太陽光発電は独立した電源として、ソーラーパネルで発

電した電力をいったん蓄電池(自動車のバッテリーを流用)に貯めておいて、直流を交流に変換するインバーターを通して使っています。

ソーラーパネル自体は20年以上も使えるようですが、蓄電池が5年ほどしか持たないので、有害物を含む廃棄物が発生するのがデメリットですが。

八木 ニカラグアの方にも、太陽光発電を通して省資源や環境問題に興味を持ってもらえるといいですね。

国内での活動も

八木 西口さん、お久しぶりですね。

西口 2014年に名古屋NGOセンターでインターンをしてました。その後ニカラグアの会でボランティアをしているのもう3年になります。会計や会員管理、イベントの手伝いなどをしています。

八木 予算とか会員ほどの程度ですか。

西口 予算は160万円、会員は100名程度います。

八木 ボランティアベースの団体で会員が100人いるのは多い方ですね。他の団体

では会員の高齢化が問題になっていますが、ニカラグアの会さんはどうですか。

西口 音楽や美術からニカラグアに興味を持ってくれる若い方が最近会員になっていただいています。また青年海外協力隊OBの方も何人かいます。

八木 この間は映画も上映しましたね。

伊藤 世界の歪みをニカラグアのバナナを通して考えてもらおうと、昨年12月に「バナナの逆襲」という映画の上映会を行いました。ニカラグアの大規模外資系のバナナ労働者が、過酷な労働条件と使用が禁止されている農業による健康被害をアメリカの大企業を相手に訴えたのですが、過激な妨害工作が行われ、アメリカのメディアの暗部が垣間見えてきたという内容です。

八木 西単に支援するだけでなく、問題を深く考えるNGOらしい取り組みだと思います。

伊藤 他にもニカラグア素朴画カレンダーを発売して、その収益をニカラグアに送っています。(注:ニカラグアの会HPをご参照ください)

八木 自然色豊かな明るい絵ですね。今日はどうもありがとうございました。

(担当 丹羽輝明)



手作りソーラーパネル講習会。青年海外協力隊の人とともに。講師はニカラグアの方。

団体概要

ニカラグアの会

〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目44番17号 嶋田ビル302号
TEL&FAX: 052-581-3772
nicaragu@aichinet.ne.jp <http://www.aichinet.ne.jp/nicaragu/>

N た ま の い ま

No.39



たかはしりかこ

Nたま12期生 高橋里加子さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てる、コミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002年～2017年度までの15回で（2004年度はお休み）、研修を受けた方は214名。このうち、のべ121名の修了生がNGO・NPOスタッフの担い手として羽ばたきました。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今どこで、どんな活動をしているのでしょうか？ 第39回はNたま12期生、高橋里加子さんにお話を伺いました。

持続可能な社会をめざして、販売者として貢献したい

■Nたまに参加したきっかけを教えてください。

大学では農学部で、食品に関する勉強をしていたのですが、座学ばかりで物足りなさを感じていました。そんなときに漠然と国際協力に興味を持ち、大学2年生のときにICANが行っているフィリピンへのスタディーツアーに参加しました。フィリピンでは路上で生活している子どもたちや家族の話を知り、キーホルダーなどの小物を作って生計を立てている現場を見せてもらいました。単純に食料を配るだけでなく、そこに住んでいる人が生計を立てる方法を提供することが大切だと実感しました。NGOがその手助けしているのを見て、帰国後、NGOのことをもっと知りたいと思ってNたまに参加しました。

■Nたまで一番印象に残っていることは何ですか？

国際協力カレッジで、フェアビーンズのエリカさんからフェアトレードのお話を聞いたことが印象に残っています。そこで初めてフェアトレードについてきちんと理解することができました。フェアトレードは、ビジネスとして利益を出しつつ、生産者が安定した生活をできるようなサイクルが回るしくみだと思います。単なる支援ではなく、経済の輪から外れてしまった人が、輪の中に戻ってこれるという点が素晴らしいです。

そのあと、フェアトレードの学生ネットワーク団体であるフェアトレードスチューデントネットワーク(FTSN)の立ち上げに関わりました。またフェアビーンズでは今でも時々アルバイトをしています。

■フェアトレードへの関心は、現地の人が生計を立てられることが大切だというフィリピンでの気づきと共通していますね。フェアトレードを知って、何か生活に変化はありましたか？

生産者のことを考えるようになりました。フェアトレード商品を買うことはもちろん、国内や地域で丁寧に作られているものを大切にしようという意識が生まれました。海外に行かなくても、足元でできることがあるんだなと思いました。

■今はさんぐりあの編集委員としても活躍していますね

さんぐりあでフェアトレードや学生団体について取り上げるということがきっかけで、参加するようになりました。編集委員をしていると色々な情報を知ることができ、名古屋のNGO業界のトレンドが分かるところが良いですね。

■今後どのような活動をしていきたいですか？

今は民間企業で働いているので、基本的に休みの日にNGOに関わっています。これまでいろいろな活動をしてきましたが、これからはもう少し範囲を絞っていく時期なのかなと思います。具体的には、国内で食べ物に関わる活動ができればいいなと。売れるべきものが売れるように…人や環境にやさしく、かつ適正な値段のものが売れるように働きかけていけたらと思います。

■ありがとうございました。

(担当:加藤)



フィリピンで手編みのキーホルダーの作り方を現地のお母さんたちに教えてもらいました

すっかり“さんぐりあ”の現場を離れてしまい、もう2年近く…。散歩のつもりが随分遠くまで来てしまいました。家族の介護生活も慣れてくるとそれなりのリズムができます。空いた時間に、しまい込んだ資料を整理しようとゴソゴソ探っていたら国際女性デーの資料が出てきました。そういえば、先日通りがかった花屋の店頭に“ミモザ入荷しました”と書かれてあり、そうか…もうすぐ3月8日の国際女性デーだと気がつきました。ミモザは国際女性デーの象徴的な花。イタリアやロシアではこの日、女性たちにミモザを送る習慣があるようです。

20年ほど前、女性の権利やジェンダーの問題に関心を持つ外国人女性や、北京女性会議NGOフォーラムに参加した女性たちが呼びかけて、NGOや市民グループが集まり、国際女性デーin名古屋のイベントを毎年開催していました。ステージ、バザー、展示、そしてクライマックスはミモザを手に持って賑やかに栄をパレードしました。2002年開催のチラシには「日本女性、41位(70か国中)?」

エッセイ
NGOの
散歩道
第28回

ミモザ
入荷
しました

のテーマ。この数字はGEM(ジェンダーエンパワメント指数)で女性が積極的に経済や政治に参加し、意思決定に参加できるかを測る指数です。さて、10数年経って今はどうだろうとネット検索サクサク。現在はGGI(ジェンダーギャップ指数:経済、教育、政治、健康の4つの分野で分析)として示されているようで、2017年の資料ではなんと114位(144か国中)です!さらに後退しています。ここで足を引っ張っているのはやはり政治、経済分野です。現在、女性の政治家は1割程度。昨年には超党派の議連が、選挙の候補者数を男女で“均等”にするよう各政党に促す法案を国会に提出しましたが、廃案になっており、今年は成立するよう願うばかりです。

ミモザの花言葉は“豊かな感受性”とか。女性のしなやかで豊かな感性が政治の場で生かされれば、今の残念な国会も少しは良くなり、私たちの国を暴力的な道へと導くこともきつとないでしょう。

アムネスティ・インターナショナル日本わや
グループメンバー

水谷 洋子

NGO
ノウハウ集

第32回

NGOにも振り込め詐欺が!?

不特定多数の人に「5,000万を受け取ってほしい。そのために以下の口座に数千円を振り込んでほしい。」とメールを送り付け、反応した人にNGOの口座番号に所定番号(6桁程度)を付与して数千円～数万円振り込ませる詐欺が横行しているという。2017年8月頃から始まり、実際の振り込みが数十件～数百件単位で発生しているそうだ。振込をした人には次々に他の振込先と金額を指定して振り込ませているようで、最終的には詐欺をしている組織自体の口座に高額での振込をさせることを目的としているらしい。実際に名古屋NGOセンターの加盟団体にもこのような送金をされた団体がある。

「NGOはいいことをしている」というイメージを勝手に使われて不愉快でもあり、被害に遭われた方の相談を受けたり、銀行と組み戻しの手続き(振込依頼人が振込受取人に振り込まれた資金を返却する手続き。手数料が

700～900円程度かかる)をするのにも時間を割かなければならない。

NGO側の対策として、まずこのような詐欺があることを知っておくことの他に、ホームページに注意書きをしたり、可能ならホームページに口座番号などを書かないなどの対応がある。

国際協力NGOセンター(JANIC)のウェブサイト
http://www.janic.org/blog/2018/01/23/attention_bank_transfer_scam/にも詳しい情報が掲載してある。

(担当:丹羽)



なんごく りこめんず
NANGOC RECOMMENDS

このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。NGOに関するあらゆる「おすすめる」情報をおよせください。e-mail:info@nangoc.org
 ※「NANGOC」とはNAgoya NGO Centerの略です。



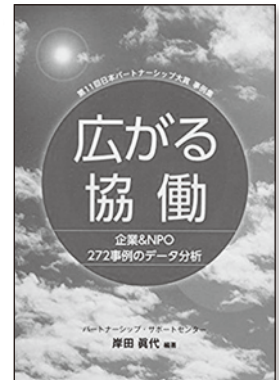
BOOK 広がる協働
 第11回日本パートナーシップ大賞事例集

パートナーシップサポートセンター代表 岸田眞代 著

丹羽輝明の
 オススメ

パートナーシップサポートセンターがほぼ毎年行っている日本パートナーシップ大賞。この事例集には9つのNPOと企業との連携事例の他、過去のグランプリのその後の状況が紹介されている。

チャリティ型 (winの関係)、トランザクション型 (win-winの関係)、インテグレーション型 (win-win-winの関係) に分類すると、大賞を受賞した事例は全てインテグレーション型だという。インテグレーション型の事例をたくさん知ることで、ぜひひとつでも多くの団体が協働にチャレンジして、成功してほしいと思う。パートナーシップサポートセンターは名古屋を起点に全国展開する数少ないNPOのひとつだ。筆者で代表の岸田さんのお話を伺ったが、20年近く前から先進的な取り組みをしていることに驚くばかりだ。



1,400円+税
 サンライズ出版 2016年

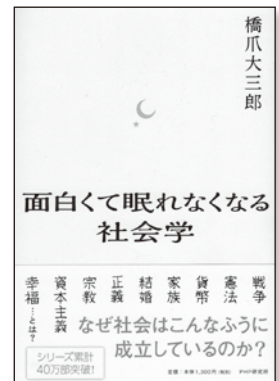
BOOK 面白くて眠れなくなる社会学
 橋爪大三郎 著

内藤裕子の
 オススメ

専門家による各学問分野を紹介する『面白くて眠れなくなる』シリーズの一冊で、主に中高生向けに易しく書かれた本だ。だからとても読みやすい。橋爪大三郎は著名な社会学者で、本人は政治学者の丸山眞男の孫弟子だとして『丸山眞男の憂鬱』なんて本も書いている。またクリスチャンでもあり、大澤真幸との対談による『ふしぎなキリスト教』も話題になった。

さて表題の本の内容だが、社会科全般の基礎的な知識が一冊でわかる便利な本であるといえる。語りかけるような調子で書かれているので、すいすい読めてしまう。本当に物事がよくわかっている人はこのようにわかりやすく説明できるんだなあと感じさせる。そして所々に橋爪ならではの解釈があり、うならされる。たとえば、カースト制の良い点(!)として、奴隷がない、だれもが結婚できる、失業がないなどのたまうので、正直言ってぶっとんだ。まあ、賛否が分かれるところだが。

このように内容的にはユニークでありながら、一般教養を深めてもくれる。ほんと、オススメ。



1,300円+税
 PHP研究所

DVD ドリーム (原題: Hidden Figures)

加藤里紗の
 オススメ

原題の意味は「隠された姿」である。NASAの有人宇宙計画に貢献したにも関わらず、表に出ることのなかった女性たちを描いた映画だ。その中の一人、計算係のキャサリンは、宇宙特別研究本部のメンバーとして抜擢されるが、白人男性の中で差別的な扱いを受け、800m離れたところにある有色人種用のトイレまで猛ダッシュせざるを得ない日々を送る。

一番印象に残ったのは、白人技術者のスタッフォードだ。彼は当初、キャサリンを差別し、一人前の技術者として認めなかった。劣悪な環境の中でも頭角を現すキャサリンに怯え、ますます態度を硬化させる。自分より「劣っている」はずの人が自分よりも優秀だったときや、自分の立場が脅かされると思ったとき。私たちが彼のようにことさらに差別的にふるまい、自分を守ろうとするかもしれない。しかしそれがいかに馬鹿げたことであるか、彼は気づいていく。この映画は差別される側だけでなく、差別する側の意識を描いた映画であるように思う。



ブルーレイ&DVD
 3,900円+税

✂️ コラム

アスタさんとのネパールスタツア10日間

きっかけ～出発

この旅行への参加は、「多文化共生を進める団体交流会」でのアスタ・トゥラダールさんとの出会いがきっかけだった。その後、ネパール大好きモモナイト(さんぐりあ117号りこめんず参照)にも参加し、トントン拍子に話が進んだ。海外旅行初体験20

代アーティスト女子とネパール大好きエンジニアおじさんとともに、それぞれのミッションを抱えて、3月17日セントレアからウキウキワクワクいざ出発。

ミッション大成功

私はルンビニのコミュニティーリングセンターが管轄する機関の一つ、女性のための識字教育をしているところで、ネパール語の読み書きもおぼつかない女性たちに日本から持っていった筆と紙を渡し、『花』と漢字で書いてもらうという暴挙に近いことをやってのけた。『花』についての説明はアスタさんにお



ティロッタマ地区首長から親書を受け取るアスタさん

任せし、「エック、ドゥイ、ティン……」と書き順をネパール語の数字でいいながら字を書いてもらうだけのことだったが、彼女たちのいきいきとした表情は忘れられない。

初海外、アーティスト女子の折り紙も大好評。彼女は結局、訪問した全てのところで折り紙を披露し、そのたびに披露の仕方の腕を上げていく。これぞまさにスタディツアー！ ナガルコット地区でのエンジニアおじさんの模型ヒコーキは、空飛ぶ鳥が仲間と見まがうほどに高くまで飛び、現地の子どもも大人も大歓声を揚げたのだった。

ネパールとの絆

私たち一行は、ルンビニではティロッタマ地区役所を訪問し、アスタさんは首長に市民間での友好親善を提案。最終日はユネスコの現地責任者と面談して、アスタさんはここでも日本とネパールとの親善友好についてとくとくと語った。いずれもネパール語だったが、あとで日本語と

英語で情報共有。最終日の会談では、自己紹介と感想を求められた私も「ネパールの文化はすばらしい、日本に帰ったらネパールのすばらしさを日本で伝えたい」とおぼつかない英語で語っていた。

長いと思っていた10日間のネパール滞在は、タメル地区でのお買い物、王宮博物館、釈迦生誕地、パタンなど観光地巡りもしたけれど、参加者のミッションに加え、アスタさん自身の使命も絡んで気づいたら帰国の飛行機の中だった。

■行程

3月17日	名古屋出発
3月18日	ネパール着
3月19日	カトマンズ市内観光(王宮博物館)
3月20日	ルンビニへ 釈迦生誕地見学
3月21日	ティロッタマ地区役所訪問など(折り紙)
3月22日	コミュニティーリングセンター施設視察(折り紙、習字)
3月23日	カトマンズへ
3月24日	ナガルコット 模型ヒコーキ飛行
3月25日	パタン観光 5月来名予定のネパール人へのオリエンテーション
3月26日	ユネスコの現地責任者との会談 ネパール出発
3月27日	帰国



次回ネパールスタディ訪問は2018年9月1～10日、テーマ『屋上緑化研修とサファリパーク訪問』

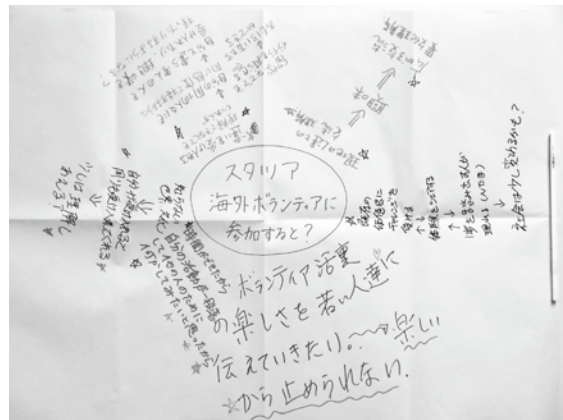
(担当 貝谷)

ネットワーキング

スタディツアー関連イベントを開催しました

昨年12/10に①旅の情報交換・交流会、2/17に②次の一歩を見つけるためのワークショップを開催しました。①は、春開催のスタディツアー情報をメインに、大曽根にあるネパール料理レストラン「ハーブ&スパイス ヒマラヤ」にて開催。ネパールのおやつをつまみながら、参加者同士の旅の情報交換、NGO活動にまつわるミニワークショップ、ツアー主催団体からのプレゼンテーションを行いました。小さなお店でのアットホームな交流会となりました。

②は、その第2弾として愛知大学にて開催。これまでにスタディツアーに参加したことのある人、スタッフおよびボランティア含め現在NGOに関わっている人、国内で社会貢献活動をしている大学生も参加し、お互いの体験と学びの共有、ツアーを主催する団体からのプレゼンテーション、次の夏の具体的な行動目標を見つけるワークショップを行いました。スタディツアーに参加すると、「違いを受け入れたり興味を持ったりするようになる」「異文化理解が広がる」「一歩踏み出す人が増える→社会は少し変わるかも」などの変化が起きます(当日のワークショップにて参加者意見より)。スタディツアー募集情報を、



スタディツアー・海外ボランティアに参加することで起る変化を掘り下げて考え共有

名古屋NGOセンターウェブサイトにて順次掲載していきます。興味のある方、是非チェックしてみてくださいね。

(報告:堀川)

ネットワーキング

互いの「違い」を「強み」にできたプロボノ活動

10月より(特活)中部プロボノセンターが行っている「プロボノ2017in愛知」に参加しました。NGOセンターへ4名の社会人と1名の学生の方がプロボノとして派遣され、主に「企業とNGOの連携促進事業」について一緒に取り組みました。事業で抱えている課題の洗い出しや、「企業とNGOの連携促進勉強会・シンポジウム」のテーマ設定、社会貢献活動についての企業へのヒアリングなど多岐に渡ってサポートして頂きました。特に第4回勉強会ではテーマを「ビジネススキルを活かすプロボノ」とし、ゲストに中部プロボノセンターの方をお招きして、プロボノ×NPO・NGOという新しい支援の形についてお話を伺いました。

ゴールである3月の報告会に向けて、多い時では月に2、3回集まり会議を重ねました。もちろんプロボノの方にはそれぞれ本業がある中で、これほど注力して頂けるとは思わず、驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。

プロボノの方の、企業目線のアドバイスやノウハウ、課題解決力には学ぶところが多々あります。プロボノの支援を受けたのは今回が初め



成果発表会前の最後の会議にて

でのことでしたが、業種や世代を超えてお互いに理解し合い、和気あいあいとした雰囲気の中で事業に取り組むことができ、とても濃い時間を過ごすことができました。

(報告:堀江)

活動報告カレンダー 2017年11月1日～2018年3月31日

●ネットワーキング

- ・「旅の情報交換&交流会 ～海外ボランティア体験をシェアして動き出そう～」(12/10)開催
- ・「企業とNGOの連携促進のための勉強会」第4回(1/18)、第5回(2/22)開催
- ・「企業とNGOの連携促進シンポジウム」(2/2)開催
- ・横のつながりをつくる勉強会「アフリカの教育と私たち・・・」(3/11)開催
- ・ワークショップ～海外ボランティア体験をシェ

アして動き出そう!～(2/17)開催

- ・「ステファニ・レナト賞」表彰式(2/24)開催

●コンサルティング

- ・NGO相談(外務省NGO相談員):【11月83件】【12月108件】【1月81件】【2月78件】【3月62件】
- ・外務省NGO相談員 出張相談:「国際協力カレッジ」(12/2)、「信州グローバルセミナー2017」(12/17)

●情報収集・発信

- ・会報『さんぐりあ』1月号発行(1,000部)・発送(12/20)

情報発信		11月	12月	1月	2月	3月
ホームページ	更新回数	23	2	7	5	8
	ビジット数	23,719	22,846	22,806	27,807	30,635
facebook (フォロワー数1,074人)	更新回数	48	18	29	13	7
メルマガ (登録数274人)	配信回数	11	11	16	10	11

人材・活動育成

Nたま15期生の修了式を行いました

2月10日(土)にウィルあいちで、Nたま15期生の修了式を行いました。10名の修了生の他に、インターン受け入れ団体の方々や過去のNたま受講生を始め、25名の方に来ていただきました。

修了式では、修了生一人ひとりが、半年間のNたまでの学びを発表し、Nたま修了後に何をしていくかを、見に来てくださった方々に宣言しました。各々が自分の言葉で丁寧に語り、その人らしさに溢れた発表であったことが印象的でした。その他、個人の発表の合間には、半年間かけてグループごとに取り組んできた自主企画の発表も行いました。今年は、企画の実施まで比較的スムーズに進んだグループもあれば、壁にぶつかり思うように進まなかったグループもありましたが、失敗も含めたすべての過程が学びにつながったことが伝わってきました。式の最後には、理事の竹内ゆみ子と中島隆宏がコメントし、無事に2017年度のNたまが締めくくられました。

事務局ではすでに、来年度のNたま16期生の募集に向けて動き始



修了式後に撮影した集合写真

めています。いつもNたまを気にかけてくださっている皆さま、本当にありがとうございます。来年度以降も皆で、Nたまの繁栄を支えていけるとおもいます。

(報告:西川)

人材・活動育成

複数年度にわたり、NGO研修を開催中です!
～NGO等提案型研修～

2017年から3年間にわたり、中部地域のNGOに対して持続可能な知識とスキルを身につけ実践するため、「NGO等提案型研修」をJICAより受託し、開催しています。

国内外で活躍している講師や専門家の方々のサポート体制のもと、座学やワークショップのみならず現場体験も行うことで多様な面からプログラムを実施しています。東海3県以外にも長野県や神奈川県、兵庫県からの参加もあり、全21団体、地域を超えたNGO同士のネットワークも生まれています。

初回はまず「NGOの理念や存在意義」など基礎を見つめ直し、次に「プロジェクトづくり」の問題点や改善点などを学びました。さらに、NGOの共通課題となる「ファンドレイジング手法」について学び、資金面での活動の方向性を分析しています。研修ではグループワークを通して、団体同士の悩みの共有や意見交換の場ともなっています。新たな発見や気づきがあったと寄せられる声も多くあり、参加者の皆様にとって学びの多い研修になっていると実感しています。

2018年度は「実践する」編と題して各団体の課題に沿ったアクシ



住民参加型プロジェクト作りを学ぶ参加者

ンプランを基に、団体が専門家より個別相談やアドバイスを受けながら実践します。研修の学びが参加団体の成果に結びつくよう、多くの方々の協力のもと運営側も気を引き締めて取り組みます。

(報告:小島)

●政策提言

- ・NGO・外務省定期協議会 連携推進委員会タスクフォース会議へ出席(11/30@東京)
- ・NGO・JICA協議会へ出席(12/14、3/15@東京)
- ・ODA政策協議会へ出席(12/13@東京、3/1@京都)

●国際理解・開発教育

- ・「食」「環境」「グローバル化」についてみんなで考えよう(11/9、11/14)開催

●人材・活動育成

- ・「国際協力カレッジ2017」(12/2)開催
- ・「NGOスタッフになりたい人ためのコミュニティ・カレッジ」実施(11/1、10-12、12/3、10、1/11、18、27、2/3、10)

- ・「3年先が見えないとお悩みのNGOのための研修」実施(11/18、12/16、1/20、2/24)

- ・東海地域NGO活動助成金の配分先が右の8団体に決定した(応募8団体)

●運営

- ・理事会(12/5、2/13)
- ・常任理事会(11/2、28、1/30、3/20)
- ・職員会議(11/28、12/26、1/23、2/27、3/27)
- ・東海ろうきん「NPO育成助成」スカイプ会議(11/2)、ワークショップ(11/24)、中間報告会(11/25)、成果報告会(3/3)
- ・アユース「組織基盤強化助成」アユースデイ(2/2)

団体名	金額(計100万円)
セイブ・イラクチルドレン・名古屋	17万円
(特活)キャンヘルプタイランド	17万円
(特活)わびねす	17万円
(特活)チェルノブイリ救援・中部	15万円
認定NPO法人アジア車いす交流センター(WAFCA)	13万円
(公財)アジア保健研修所(AHI)	13万円
(特活)平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会	4万円
(特活)DIFAR	4万円

名古屋YWCA

名古屋YWCAは、1933年より、女性を中心となって、全ての人が等しく大切にされともに生きる社会を目指し、活動を進めています。ボランティア活動だけでなく英語教育や日本語教育も展開し、運動体と事業体の二つの面を持っています。YWCAの活動の特徴は何といってもその息の長さです。機敏とは言えないのですが、始めたら粘り強く取り組むゆるぎなさがあります。会員一人一人が一つの枝や根となって小さな活動を続けYWCAという一つの公共空間を作っています。

最近では子どもや女性、貧困の問題に力を入れています。「私たちは買われた展」「シングルマザーのフェスティバルReborn」「個別に配慮を必要とする子どもを支援する事業」、被災家族の保養活動「名古屋いりゃあせツアー」「外国人子ども日本語教室ガリ勉クラブ」「外国人子育てサポート教室バンピーナ」など、多面的な活

動を行っています。

一つ一つが大切な活動ですが、今回は「ガリ勉クラブ」について報告します。2011年に活動を開始し、現在は在籍する子どもが年間のべ400人、ボランティアは50人という大きな活動に成長しました。1970年代より開始した日本語教育事業から生まれたボランティア活動です。ボランティア活動が事業化することはあってもその逆はなかなかありません。背景には定住化する外国人家族の急増があります。日本語教師養成講座出身の質の高いボランティアが活動を支えています。

最後に、長く続けて来られたのは、その時々への権力に流されず、常に弱い者の立場に立つ活動を行ってきたから。活動は多様ではありますが、YWCAにかかわる全員が一番大切にしている点です。



外国人子ども日本語教室 ガリ勉クラブ

(業務執行理事 磯村美保子)

公益財団法人
名古屋YWCA

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 TEL:052-961-7707 FAX:052-961-7719
Email yyy@nagoya-ywca.or.jp

バングラデシュ保育園の会=BNSA

バングラデシュ保育園の会は、バングラデシュの首都ダッカにアイ・キッズ・ガーデンという小規模な保育園を開設し、運営支援をしています。都市部の保育園は富裕層も需要が多いのですが、当園は貧困層で働く家庭の子どもを預かっています。

2016年7月のダッカ外国人テロ事件により多くの日本人が亡くなり、非常に危険なイメージでしたが、ISの影響力が下がるとともにバングラデシュへの日本人訪問も回復してきています。

バングラデシュは1億6千万人が日本の約4割の国土に住みイスラム教徒が多い国です。2017年度の経済成長率は7.2%と高いのですが、財政は

慢性的な赤字で外国援助と国内銀行の借入等で補填しています。経済が縫製品輸出や海外労働者の送金に頼っている現状を電力・道路等のインフラを整備することで産業の多角化を目指しています。そのため2018年度の予算では31.7%がインフラ構築事業に充てられ、日本のように社会保障に予算は取られていません。

業に充てられ、日本のように社会保障に予算は取られていません。

以前、現地の人に保育園と老人ホームはバングラデシュにいらないと言われましたが、工場が増え、働く女性が当たり前になると同時に保育の必要性が理解されるようになりました。



アイ・キッズガーデンの園児、左端はレヌ園長

(小田孝)

バングラデシュ保育園の会
=BNSA

〒466-0004 愛知県名古屋市昭和区広瀬町2-6-7 TEL&FAX:052-741-5149
E-mail:itou@rokusou.jp

まちづくりスポット

飛騨高山は年間450万人以上の外国人観光客が訪れます。散策マップは10ヶ国語対応しており、最近ではベジタリアンやムスリムなどへの施策が始まっています。一方で、在住外国人への対応は遅れており、彼らが笑顔で暮らせる地域とは言えないのが現状です。

「子どもが持ってくる保護者便りを読むことができないの。」と言葉をこぼしたのは、小学生の子どもをもつ外国人の母親でした。国際結婚を機に海外から高山に移住し、日本語は話せるものの、読み書きには時間がかかります。学校のお便りから情報を読取るのは一苦労です。そんな時、行政に相談しても対応できず、夫以外に頼れるのは日本語教室の先生だけでした。

このような悩みを抱えている人が他にもいるのかもしれないと考え、現状を知るための意見交流会を実施しました。暮らしの困りごとなど様々な意

見がでしたが、中でも印象的だったことは「母国について話せる機会がない」という悩みでした。気楽に話せ、悩みに共感してくれる仲間も必要だということに気づき、もっと簡単に楽しめるパーティーのようなイベントを開催しました。参加者の中から、この活動に賛同し、企画から関わりたいと手を挙げる方も現れ、今後の活動に追い風が吹いています。

NPO法人まちづくりスポットは、住民が生活する中で出てくる課題の解決を一緒に考え挑戦する中間支援組織です。上記の多



参加者それぞれの家庭料理を振る舞い合うイベントを実施

文化共生の分野だけでなく、事業は多岐に渡ります。住民と一蓮托生であることを肝に命じています。より広くご協力を頂くために、この2月に認定NPO法人を取得しました。私たちが取り組むまちづくりに関心を持って頂いた方、ぜひ一度飛騨地域にお越し下さい。観光ではない「飛騨」をご案内致します。

(本間あかり)

認定NPO法人
まちづくりスポット

〒506-0025 岐阜県高山市天満町1-5-8(フレスポ飛騨高山内)
TEL:0577-62-8550 FAX:0577-62-8580 E-Mail:info@machispo.org

名古屋NGOセンター正会員(加盟団体)一覧

47の加盟団体が世界中で活躍しています。

- ・認定NPO法人 アイキャン
- ・認定NPO法人 アジア車いす交流センター(WAFCA)
- ・公益財団法人 アジア保健研修所(AHI)
- ・公益社団法人 アムネスティ・インターナショナル 日本“わや”グループ
- ・認定NPO法人 アーユス仏教国際協力ネットワーク・東海
- ・あるすの会
- ・(特活)イカオ・アコ
- ・認定NPO法人 インド福祉村協会
- ・公益財団法人 オイスカ中部日本研修センター
- ・オヴァ・ママの会
- ・オリブジャパン国際開発協力協会
- ・GAIAの会(主活動=名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会)
- ・外国人入管手続研究会(IPAA)
- ・(特活)キャンヘルプタイランド
- ・国際相互理解を考える会
- ・ココアゴラ Cocoagora
- ・(特活)沙漠緑化ナゴヤ
- ・(特活)泉京・垂井
- ・(特活)多文化共生リソースセンター東海
- ・(特活)タランガ・フレンドシップ・グループ
- ・(特活)地域国際活動研究センター(CDIC)
- ・(特活)チェルノブイリ救援・中部
- ・なごや自由学校
- ・公益財団法人 名古屋YWCA
- ・南遊の会
- ・ニカラグアの会
- ・一般財団法人 日本国際飢餓対策機構(JIFH)
- ・日本バングラデシュ友好協力会(JBCS)
- ・ハート・フォー・ザ・ワールド・ジャパン
- ・バングラデシュの人々を支える会
- ・バングラデシュ保育園の会(B.N.S.A)
- ・ピニンブラザーホッドトーカイジャパン
- ・フィリピン移住者センター(FMC)
- ・不戦へのネットワーク
- ・認定NPO法人 平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会 ピースあいち
- ・ベシヤワール会名古屋
- ・認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構
- ・(特活)ボラみみより情報局
- ・認定NPO法人 まちづくりスポット
- ・認定NPO法人 ムラのミライ
- ・(特活)ル・スリール・ジャパン
- ・認定NPO法人 レスキューストックヤード
- ・ACF JAPAN アジアこども基金
- ・(特活)DIFAR
- ・(特活)NIED・国際理解教育センター
- ・NGO・世界の子どもたちを貧困から守る会
- ・マゴンスクールを支える会

※(特活)は、特定非営利活動法人の略です。
(2018年3月31日現在)

会員・寄付者、協力者の紹介

(順不同・敬称略)

2017年11月1日～2018年3月31日

●賛助会員(個人)

【更新】兼松真梨子、貝谷京子、尾崎寿光、林滋、坂部武志、平尾秀夫、蟹江舟美、中村裕、龍田成人、福田美津枝、森敬子、鷺見三恵子、堀田妙子、藤井典夫、廣井修平、平野木恵、三浦哲司、伊佐次歩、梅木早苗、塗師千賀子、加賀美薫、片岡功、藤村昭子、山岡要子、加藤克也、番真一、谷川毅、西口のぞみ、六鹿直樹、加茂省三、海野香織、中島隆宏、関野初理、高木雅成、西井和裕、三田禮子、堀川絵美、近藤公彦、安藤誠、中田健太郎、細井和世、平井英司、坂本恵里、佐原恵津子、川野歩知、加藤信一、齊藤尚文、近田千波、清水光子

【新規会員】高野菜、鈴木英司

●賛助会員(団体)

【更新】：(株)シーテック

●寄付者(物品なども含みます)

秋田正己、伊藤武士、宇野菊夫、大島京子、大野博人、小椋愛、後藤文昭、酒井俊輝、目加田貴弘、山田志帆、太田貴久、宝泉寺、堀江愛里、丹羽輝明、塗師千賀子、片野真由美、中部ウォーカーソン、松井佳子、福田美津枝、加藤信一、鈴木英司、戸村京子、伊藤幸慶、廣井修平、宗教法人真如苑、田中幸男、八木美和子、松浦史典、大屋正人、高須康子、(株)シーテック、笠松希代美、高野菜、竹内由美子、高木雅成、山田淳一、野崎敏子、北医療生活協同組合北病院組合有志一同、松島周平、B.A.P's BABY、西口のぞみ、足立早哉香、神谷美仁、神谷泰世、羽佐田さく江、原田篤実、尾崎寿光、横山紀子、Nたま現役生・修了生一同

●グッドウ3,347円 / アマゾン・ヤフー1,219円 / 楽天769ポイント

●117号(2018年1月号)

会報発送の協力者

木全真夕奈、丹羽輝明、山内喜美子、まゆちゃん

みなさまのご理解・ご協力に心より感謝申し上げます



カフェ貸切 受付中

少人数のセミナー、ワークショップ等のイベントにご利用いただけます

美味しいケーキと飲み物付き
20名/13,600円(税別)～
15時～18時の内2時間
プロジェクト、Wifiあり
※最大30名 ※詳しくは電話にて

名古屋駅太閤通口から徒歩5分
(新幹線改札側)

Glocal
Glocal Nagoya Hostel, Cafe and Bar

名古屋市中村区則武 1-21-3
11:00～23:00(LOは22:00) 月曜定休
☎ 052-446-6694 (お電話でご予約承ります。)
グローバルカフェ

会員からのメッセージ

●齊藤尚文～住まいが日進市、職場が豊田市にあるので、名古屋市へ行く機会はあまりなく、NGOセンターはなじみのあるところとは言えません。しかし、学生たちが、「Nたま」や加盟団体のインターンシップとかスタディツアーといった機会を、ぜひに利用させていただいています。これからも、若者たちがグローバル市民として成長する機会を提供してください。

●廣井修平～NGOと(というよりも、名古屋NGOセンターと)関わって早8年。NPOとの関わりだけでいえば、もう10年にも。あの頃、中学生だった私ももう大学を卒業しこの4月から社会人。この5年ぐらいで社会や世界は、ほんの少しでも良い方向にいったのだろうか？社会を少しでもより良い方向に向けることができるのが市民活動。引き続き、活動に邁進したいと思うこの頃。

事務局だよ!

●坂井敏子～門田さんのピンチヒッター、堀川さんが2018年度も継続してくれることになりホッとしています。多忙のために殺伐とした雰囲気、ぐっと前向きにしてくれる有難い存在です。

編集後記

●加藤里紗～6年間の大学院生活を経て、今年から社会復帰をしました。さんぐりあもしばらくお休みしていましたが、今号から復帰させてもらっています。長い下積み生活で実感したことは、規則正しい生活の大切さです。私は怠惰な人間なので、放っておくと何も進まないまま夜になり、罪悪感を抱えたまま朝を迎える、という日々が続きました。冬場には太陽の光を浴びることなく何日も過ごすことも…。本当に心にも身体にもよくなかったです!もしこれから大学院に入られる方がいれば、規則正しい生活を心がけることを一番にアドバイスしたいと思っています。

2018年度の定時総会を開催します。

参加を希望される方は事務局までお問合せ下さい。

- 日時：2018年5月19日(土) 10時～12時
- 会場：YWCAビル2F(201・202)



フェアトレード雑貨&コーヒービーンズショップ フェアビーンズ



この春、フェアビーンズの店長が交代します。新店長は、名古屋NGOセンターでも会員管理を担当しているもんろうです。ぜひ冷やかに来てくださいね!たくさん声をかけていただくと嬉しいです♪

【新店長 加古(もんろう)より一言】
初めまして、加古です。
アフリカ&オーガニック食品好きの食いしん坊、お店にあるハーブティ全制覇を目指します! 4月から宜しくお願いします♪

名古屋駅から南へ徒歩10分 JICA中部1F なごや地球ひろば内
営業時間: 10:00～17:00(火～金)、10:00～17:30(土・日)
定休日: 月曜日 4月から祝日も営業! ※祝日の場合は翌火曜日休業
TEL: 052-583-6480
フェアビーンズコーヒーオンラインショップ <http://fairbeanscoffee.net/>

発行：認定特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
編集責任者：丹羽輝明
会報編集委員：市川隆之、貝谷京子、加藤里紗、桜井裕子、高橋里加子、内藤裕子、堀江愛里、村山佳江
協力者：廣井修平
レイアウト：久由紀枝
発行日：2018年4月24日
印刷：山本印刷株式会社

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター (認定NPO法人)

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F
TEL&FAX: 052-228-8109 URL: <http://www.nangoc.org>
E-Mail(代表): info@nangoc.org